



僕が購入して売ったことになりません。出版社の方には「全国」の大きな書店に入

れています。」と言

われましたが、全国の書店に並べるほど残りは多くないはず。いったどれくらい大きな本屋さんに入ったことやら？

年を重ねるということ

このようなことを言うと嫌味に聞こえてしまいますが、僕は基本的に体が丈夫です。小学校時代、クラスの仲間たちが風邪などで欠席していると、自分がそうであるように「学校に来たくないから仮病を使っているんだ」と思っていました。もちろん中学、高校と病気で休むことはほとんどありませんでした。大学に入ると二日酔いで……ま

あ、この話はよしにして、基本的に病気とは無縁です。体力にも相当な自信があります。そんな僕ですが、最近いろいろ異なる変を感じています。

一つは疲労の蓄積。訪問診療は体力も使うのですが、少し前まで疲れが残るということはありませんでした。しかし、何か疲れが取りきれない感じが絶えず残ります。まあ、夜更かしなども以前と同じようにやっているせいもあるので



さらに、「オヤジ」的なため息や「どっこいしょ」といったかけ声。若いときは「かつこ悪い！」と思っていたのにいつの間にもやら口癖に。

また、昔からそんなにあつたわけではありませんが、腹筋がなくなり、支えをなくした脂肪が前面に出た気がしてなりません（と言いながら事実）。

重症なのは、話をしな

がら盛り上がったところ
で何について話をしていた
のか忘れること。昔、うち
のおばあちゃんが夕食時
に老人会やゲートボール



の話をしていたとき、「何を話してたかしら」などと言うものだから幼心に、相当ボケてると思ったものです。

他にも、信号が青から赤に変わりそうになつていたり、急に走り出そうとすると足首が痛かったり筋肉がつりそうになったり。若い時にあれほど走りこんだ蓄えはまったく残っていません。

まだ、目と歯に異常が来ていない分だけ幸せかもしれませんが、でも、いつの日か……人間、年を取るといふところが衰えていくんだ、何ていうことを人生三十九年目にしてはじめて知りました。